

一般質問



仙北市農業の活性化と地域農家が意欲を持てる施策は

職員の人員数は適正か、また適材適所の配置となっているか

黒澤 龍己

地産地消の積極的推進について

質問 仙北市の農産物の柱は米である。米の地産地消を進め、消費拡大に結びつけることによって、農業の活性化につながり所得の向上になると思う。

市立病院、学校給食など、仙北市のさまざまな施設で安全で安心な地元産の米を使用すべきと思うが市長の考えを伺う。

市長 仙北市としても極力市内の施設では、市内の作物、製品を使うように心掛けてきたが、米に関しては、JAを通して購入した場合、必ずしも地元産の米が来ているわけではない。流通の仕組みなど、改善に取り組む必要もあると思う。

今後、市の施設を中心に市内の生産物を主体的に使用する方向へ進めていきたいと思っている。

観光産業と農家の連携は

質問 仙北市の観光振興計画を見ると、基本理念は、観光に関連する産業として、基幹産業である農林業は、商工業と密接に結びつく重要な産業として位置づけられている。また振興を図るために



地産地消で頑張っている立町ポケットパーク

は観光と農林業、商工業との連携により市民全体が豊かになり、観光で潤うまちづくりを進める。と書いてある。しかし実現するにはそう簡単なことではないと思う。

観光に訪れるお客さんに、安全で安心な地元の農産物を美味しく食べてもらう、そして買って頂く。安全、安心な農産物に取り組んでいる担い手農家、営農組織がたくさんいる。観光と農業を結びつけるきっかけを行政が作ってや

るべきと思うが市長の考えを伺う。

市長 市の施設と同時に市内の宿泊施設や加工施設、加工業者が使っている原料、材料としての農産物、こういった物についても地産地消の促進、呼びかけをし消費者側の意識を高めていきたい。

生産者の方からも色々な提案をもらい、地産地消のチャンスをつくっていききたい。

行政の役割として、きっかけに深く関われるような調整役を務めていきたいと思っている。

職員の人員数は適正か、適材適所の配置となっているか

質問 合併して、分庁舎方式でスタートして三年になるうとしている。

広い仙北市、そして多様な産業が多い仙北市では、様々な事故、災害、事件等が想定され

る。観光客はもちろん市民の安全、安心を確保するためにも、各課、各地域センターに適材適所で適正人員の配置が必要と思うが、市長の考えを伺う。

市長 年度が変わるたび、また機会のある度に適材適所という観点から配置換えをしてきている。今後も定員の業務が円滑に推進できるような人員配置を進めていきたいと思っている。

質問 数ある課の中で業務量や内容は当然異なると思うが、市長部局の残業についてどのように指示しているのか伺う。

市長 残業については、実際かなりの時間がある。

残業をせずにこなせる体制が最も望ましいが、申告相談の時期、国保、観光、イベントなど、どうしても必要な時期がある。十九年度までは三パーセント、二十年度は二パーセント以内に抑えるように各課に指示をしている。